



令和3年度SSH生徒研究発表会（文科省・JST主催）

# 祝ポスター発表賞受賞

8月4日(水)、5日(木)に神戸国際展示場にて、全国のSSH指定校、経験校の224校が参加し、SSH 生徒研究発表会第1部が行われました。

本校からは、3年理科の生物班「イシクラゲ最強説 イシクラゲの紫外線吸収に関する研究」が参加しました。

質疑応答だけでなく、英語での発表にも対応できるように、追加資料

も準備するなど、万全の体制で臨みました。

8月20日(金)には、SSH生徒研究発表会の第2部がオンラインで実施され、代表校6校による発表の後、表彰式が行われました。

本校は、全国の発表の中から代表22校に選ばれ、ポスター発表賞を受賞しました。本校SSH第II期では、初めてとなる快挙となりました。



## 本校SSHの取り組みがJSTの「SSHパンフレット」 「名古屋大学公開セミナー」で紹介されました

本校SSHの強みのひとつとして、新型コロナウイルス感染症拡大の4年以上前からオンラインを活用した授業や海外との事前研修を実施してきたことが上げられます。JSTから発行されるSSHパンフレットでは、昨年度の九州地区オンライン担当者会議のワークショップの様子を、名古屋大学公開セミナーでは、海外との合同課題研究ポスター発表会の様子を高校のハイフレックス型授業の先進事例として、紹介していただきました。

SSH事業の活性化を目的に「九州地区SSH担当者交流会」(令和2年10月14日)を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大以前から取り組んで来たオンラインでの外部連携授業等の経験を活かして計画し、84名が参加。文部科学省による講演や各校の事例報告等で成果と課題を共有しました。ワークショップではバターンラウンダージュによる情報交換を行い、参加された先生方からは「皆さん、スムーズに会議に参加できてとてもよかった」「少人数で話しやすい雰囲気、気軽に相談できた」「オンラインでこのような密な交流ができることに驚きました」等の感想が聞かれました。

九州地区SSH担当者交流会を主催し、オンラインでのワークショップ等を実施しました。

熊本県立熊本北高等学校

Topic 1

高校でのハイフレックス実践  
(熊本北高校)からの提供事例

— 理科3年生 ハイブリッド型ポスターセッション

- 3年39名全員発表
- 1・2年80名見学
- 審査員8名 (内5名は外部のALT)
- シンガポール 6名 (2班参加、1名教員)
- コペンハーゲン大学1名
- 自校職員約10名

ブレイクアウトセッション:シンガポール・コペンハーゲンを繋ぐ

41

科学技術振興機構 (JST) が、SSH事業を紹介するために全国に発行するパンフレット

名古屋大学高等教育センター第104回 客員教授セミナー 杉森公一氏講演資料

## 夏の課外授業で課題研究の時間 普通科文系への課題研究オリエンテーション実施

2学年では、全クラスにおいて、夏休み後半の毎日の課外授業の時間の中で、探究活動の時間を設けました。

普通科理系クラス及び理数科では、1学期に準備したものを、集中して見直したり、実験計画を考えたりする貴重な時間となりました。

普通科文系クラスと英語科で、「総合的な探究の時間」でのグループ研究が始まりました。

初日には文系クラスを対象にSSH研究部長からオンラインでの講話がありました。

生徒は各教室からオンラインで参加し、課題研究が自身の在り方や

生き方に深く関わっていることを知る機会にもなりました。

講演の中では、課題研究の例として、行政や地域社会と連携し、地域課題と向き合う方法も提案がありました。翌日にはさっそく地域経済研究班の生徒達が、SSH研究部へ相談に訪れていました。



課題研究オリエンテーションスライド(抜粋)

### 一県立高校One Teamプロジェクト事業一 農業高校との合同発表 学習会打ち合わせ



X



県立高校One Teamプロジェクトは、様々な学科・コースを持つ県立高校の強みを生かし、学校や学科の枠を越えて、様々な教育活動を行うプロジェクトです。

本校では、プロジェクト

のひとつとして、菊池農業高校とのコラボレーションを企画しています。

合同発表会や勉強会の実施に向けて、両校代表によるオンライン会議を実施しました。

農業高校のプロジェクト

学習や、専門教科と連携した課題研究の進め方、地域と連携した活動など、農業高校の強みをいかした活動について知ることができました。

合同発表会に向けて、準備を進めていきます。